

KSKR

2020.1

Vol.50



つながり通信

編集人:社会福祉法人つながり
大阪府高槻市富田町4-7-16
TEL:072-697-7080



令和元年10月25日 サニースポット一泊旅行(志摩スペイン村)

社会福祉法人つながり・つながり後援会

- 1P 表紙・目次
- 2P 新年のご挨拶 つながり後援会会長 梶谷忠大
- 3P～7P 社会福祉法人つながり 事業所活動紹介
【サニースポット、ワークスポット、ふらっと、コラム、ライラック、かるがも】
- 8P～10P 家族会ひだまり 全体集会報告【2019年8月16日開催】
- 11P～12P つながり後援会・家族会ひだまり 全体会報告【2019年12月13日開催】
- 13P～15P 障がいのある子どもたちの進路を切り拓いて…
～佐竹美和子さん インタビュー～
- 16P 裏表紙【家族会ひだまり 夏祭り・フェスタ 売り上げ報告】

つながり通信について…

地域に開かれた事業所を目指し、法人内の各事業所の取組みや活動内容等、情報開示を行い、より多くの方々に当法人の方針や活動内容を知っていただく事を目的としています。

新年のご挨拶

社会福祉法人つながり後援会

会長 梶谷 忠大



明けましておめでとうございます。

つながりの各施設に通所されている皆さま、保護者の皆さま、家族会の皆さま、新年をすこやかに迎えにいられたことお慶び申し上げます。今年も、通所者一人ひとりが自立をめざして元気に日々を過ごされますことを、職員も家族会の皆さんもお元気でその成長を支え見守られますよう、祈念申し上げます。

昨年十二月の「つながりニュース」に、フェスタ・ヒューマンライツが十二月一日に開催され、とても大勢の方が来場され、大変なにごわいだっただことが報じられています。関係者の皆さん、ご苦労さまでした。私も、サニースポット利用者の皆さんのピアノ演奏や歌唱を聞きたかったのに、参加できず残念だったと思っています。

さて、昨年十月八日に「グループホーム アンタレス」、十月三十一日には「グループホーム わかあゆ」への見学会が実施され、これを受けて、十二月十三日につながり後援会・家族会ひだまり全体会が開催されました。

法人からは岡本業務執行理事、藤森法人本部事務局次長、仲津コラム管理者、家族会ひだまりからは宮浦会長他二十二名、つながり後援会からは私を含め四名が参加しました。

家族会からは、一人ひとり全員の皆さんが意見と希望を発言されました。皆さんのグループホームに寄せる期待の大きさと切実さを強く感じました。将来にわたる子らの日々の暮らしと自立への願い、そしてご自分の高齢化に伴う不安など、グループホームへの思いは、もっともと思われまます。

しかし、申すまでもなくグループホームの建設にはいくつもの大きな壁を乗り越えねばなりません。それに向かいながら、自立をめざす子らの日々の継続した活動と、それを支え、見守る家族、職員、そして地域社会の皆さんの温かい存在が、何より大切なことではないかと思えます。

僭越ながら私の新年の挨拶といたします。



事業所 活動紹介

サニースポット (生活介護・就労継続B型)

今年度の事業計画でも掲げておりました「館内の照明のLED化」「カラオケ環境の整備」を行いました。

LED化

に伴う工事は、3事業者から見積もりをとった結果、

株式会社ZEROに依頼することになりました。工事期間中は、利用者様をはじめ関係者の皆様にご迷惑をおかけしました。この場を借りて感謝申し上げます。LED照明になったことで、以前より部屋が明るく見える



ようになりました。照明の交換時期も大幅に延び、購入や交換する手間が少なくなりました。サニースポットも開所から十七年目を迎えています。地域の皆様にも気持ちよく使って頂けるように取り組んでいきます。

カラオケ

月1回程度開催している土曜開所で、以前からカラオケ

を行っているのですが、その機器が古くなり、新しい曲が歌えない状況でした。サニースポットでは、カラオケ好きな利用者様も多くカラオケをするのを楽しみにされています。今回、新しい曲が歌えるよう

に佐竹理事からご寄付をいただきカラオケ機器を購入しました。最新の流行り曲を歌えて次回のカラオケも楽しみにされています。

さすぽ夏祭り

「第十八回さすぽ夏祭り」が七月二十

日(土)に開催されました。今年は、梅雨が明けないまま当日を迎えることになったのですが、この日は雨に見舞われることなく終えることが出来ました。周りの皆さんが「私は晴れ男。晴れ女」と口々に仰っていたのを聞き嬉しくて笑ってしまいました。天候も味方になってくれ、売り上げは昨年を大幅に超える十七万円程でした。今年も、「さすぽ祭りだ！わっしょい！」の大きな掛け声で、お神輿を曳きました。他の事業所にも出店依頼し「ぶっつ

と」の射的ゲームとフットフレーム作り。「ワイクスポット」のロールケーキ販売、「ライラック」から焼き鳥販売して頂きました。3本百円の焼鳥販売では、お客様の列が途切れな



POSSレジ

令和元年十月より消費税が八%から十%に上がりました。ご存知でしょうが、飲料や飲食物などの生活用品の持ち帰りは、八%のままとなっています。サニースポットでは、喫茶クローバーでのランチ提供をはじめ、クッキーやドーナツなどのお菓子の販売を行っています。しかし、飲食物以外のさをり製品や縫製製品、レザークラフトも製作し販売しているのです、別々に消費税の計算をする必要が出てきます。そこで今回、軽減税率対象補助金を活用し喫茶にPOSSレジの導入を行いました。



一泊旅行

十月二四日、二五日、**7年ぶり**の一泊旅行へ行ってきました。旅行者様と「たのしみやなあ」と話すのが日課となっていたのを思い出されます。行き先が、

志摩スペイン村に決定してからは、バス内でのレクリエーションや食事や宴会など、考えるだけでワクワクしていたのだと思います。旅行担当職員を中心に、行動グループ分けや泊まる部屋割り、食事の際の配慮など、事前に下見も行い、しおり作成からお風呂の際の対応のミーティングなどの準備を行いました。ライラックとコラムから職員フォローを頂き、当日を迎えることができました。期待とは裏

腹に天気予報は雨。1日目は、**鳥羽水族館**で、ジュゴンやアシカショーを見て周りました。みんな一緒に見て盛り上がり面白かったです。その後、バスで移動しホテルに着くと、オーっと歓声が上がりました。まさかこんな立派なホテルに泊まると思っていなかった。ので驚き、すぐには信じられないほどでした。荷物を部屋に置いて、大浴場へ向かいました。露天風呂でくつろぐ方やサウナに入っている方もいました。楽しみにしていた夕食は、豪華でも刺身や伊勢海老もあり「おいしいなあ」と食べながら話していたのが最高に幸せでした。その後、歌えや踊れやで大盛り上がりでした。2日目は、楽しみにしていた**志摩スペイン村**なのですが、天気予報は大雨。ホテルを出発する時もどしゃ降りでした。バス内では、みんな諦めモードだったのですが、到着した途端に雨が止み、次第に晴れ間も覗き、ある人が「**パルケの奇跡**」やと名言ばい言葉を言っていました。ジェットコースターなどのアトラクションにも乗ることができました。パレードが中止になったのですが、代わりにキャラクターが入口付近に集まって踊っ



てくれて、むしろこちらのほうがみんなにとっては良かったのではないかと思えるぐらい、良い笑顔が見られました。帰りのバスでは、DVD鑑賞を子守唄にぐっすり眠っていました。大きな事故もなく旅行を終えることが出来てホッとしています。旅行後のアンケートで、ご家族の皆様から「ありがとう」の感謝の言葉を頂きました。職員は、準備から当日の支援など大変な事もあったと思いますが、利用者様と一緒にこの一泊旅行を経験出来たことは、将来にも生きてくると信じています。楽しい、面白いなどを共感し、お互いが認め合う関係になっていたらうれしいです。利用者様からは、来年はデイズニールドや



なあと言われ苦笑いを返したのですが、次回は、7年も待たせず計画していきたいと思っっています。出来れば、利用者様はもちろん職員も変わらないメンバーで行きたいなと夢描いています。

フエスタ・ヒューマンライツ

十二月一日(日)毎年恒例のフエスタ・ヒューマンライツが開催されました。毎年、寒い日に

行う事が多いのですが、この日は長袖では暑いほどの晴天でした。サニースポットでは、お菓子をはじめ授産製品を販売していますが、その他にも厨房から食べ物を出しています。カレーうどんやおにぎりセット、ぜんざい、コーンスープなど種類も豊富に揃えています。授産製品では、新製品も追加し種類が増えた“さをり織り”製品、ものづくりより縫製製品、クリスマスリースやお正月リースに加えレザークラフトも棚に並びました。畑で採れた野菜も販



売し、お子様用に手づくりガチャガチャやくじ引きも取り入れられました。過去最多の種類の販売となり、売上も二十万円を超えました。利用者様、職員の努力が報われたようで嬉しかったです。富田ふれあい文化センター大ホールでの舞台発表の合唱曲は「パプリカ」。この日のために、振り付けと歌の練習を重ねてきました。発表前に二名の利用者様からピアノ演奏して頂きました。昨年よりも堂々としている姿を見て頼もしく感じました。合唱では、緊張もあつて声が小さかったかもしれませんが、職員も一緒に精一杯唄うことができましたと思います。MCの利用者様にも盛り上げてもらい、観客の皆様から温かい拍手を頂けた時の安堵感と達成感忘れられません。

ワークスポット (就労移行・自立訓練・就労定着)

防災訓練

一昨年より高槻市の消防署に依頼し、防災訓練として災害時に救助を待つだけではなく誰かを助けることができることを目的とした災害時の避難法や心肺蘇生法、AED・消火器の使用法を利用者様全員に習って頂く取り組みを行っています。

月に一度、休日開所を行い余暇の過ごし方の提案をしています。参加希望者を募り近隣から少し遠方の京都や神戸方面まで外出するなど、楽しみや学びの機会にしています。

USJ

今年度初めての取り組みでは、十一月にワークスポット日帰りでUSJに行ってきました。事前に座

学を行い、絶叫系を好む方と好まない方との班を作り、各班で行きたいアトラクションも予め決めてから向かいました。曇り空ではありましたが皆さんの願いが叶って雨も降らず、平日というこ

ともあつて待ち時間も少なく時間いっぱい楽しむことができました。

今後楽しい

日々を共有しながら就職という利用者様にとっての最初の目標を達成するため職員一同努めてまいります。



ふらっと(放課後等デイサービス)



外出活動

長期休みには、普段の外出活動では出来ない公共交通機関を利用しての外出活動を実施し、**京都タワー**や**大阪城**へ行ってきました。また、今年度から休日開所を実施し、**生駒山頂遊園地**や**京都水族館**へ行ってきました。外出活動を通して食事のお店でのマナーや公共交通機関でのマナーについて意識した活動を行っています。また、休日開所では曜日毎の縦の繋がりが、学年の横の繋がりを意識した活動も行っています。

近隣の公園へ出かけ、長いすべり台やブランコ等でたくさん遊んでいます。また、夏にはサニースポットの屋上でプールを広げ水遊びをしています。買い物練習では、レジでの支払いや袋詰め等を練習しています。

お菓子作り

利用児の年齢や出来ることに考慮しながら、平成三十年度から壁画工作を毎月全員で協力しながら作成しています。現在も毎月作成した壁画をサニースポット内の喫茶クローバーにて展示をしています。一年間通して作成した壁画をカレンダーにする等の持ち帰り分の工作を作成し、達成感や次への活動意欲を促しています。



コラム(グループホーム)



振り返り

コラムでの昨年一年間の活動を振り返れば、夏季・冬季イベントの開催や富田富寿栄盆踊り大会での出店、自治会活動への参加、利用者様との避難訓練、グループホーム見学会やご家族懇談会の開催など盛りだくさんの内容となりました。しかしその中でも一番時間を費やしている事、そして最も重要な活動は、やはりそれぞれの住居で行われている日々の地道な生活支援ではないでしょうか。

現在、コラムでは四つのグループホームを運営し、総勢十六名の利用者様が生活しています。利用者様によつては、その日の気分や体調、天候、日中活動での出来事など様々な要因により、それらが良くも悪くも、食欲や排せつ、睡眠、翌日の活動意欲などに影響を及ぼすことも少なくありません。利用者様の起床から日中活動への送り出し、そして帰宅から就寝までのサイクルは単純に見えて、実は本当に細やかな支援が必要とされます。言葉や表情、落ち着きなど、毎日のほんのちょっとした変化に気付き、原因を探り必要な支援を行う…。



うに問題↓解決↓問題↓解決の連続です。イベント開催などの華やかな活動がある背景には利用者様にとっても支援者にとっても、そういった日々の積み重ねがあるという事を、一度思い起こしてみる機会も必要なのではないかと思えます。

安定した生活基盤があつてこそ利用者様に充実した毎日を送っていただけだと信じ、ご家族様、地域の皆さまをはじめ、サニースポットや関係各所と協力しながら、コラムとしての役割を果たして参りたいと思えます。



ライラック (ホームヘルプ・ガイドヘルプ・相談支援)

相談支援

相談支援専門員の業務は主に、福祉サービス利用に関する全般的な相談、サービス等利用計画の作成となっています。今回は担当者会議という、利用者さんが持たれている思いや希望を、各事業所の担当者間で話し合う会議についてお話をさせていただきます。

利用者のAさんから「欲しいものがある」と相談された事がきっかけとなり、Aさんの買い物支援について各事業所の担当者(金銭管理をしている事業所、日中活動をしている事業所、ヘルパー派遣をしている事業所、相談員)に集まってもらい、「買い物」についてを担当者会議の議題にあげ話し合いを行いました。今までAさんの買い物は、金銭管理をしている事業所の職員さんとやり取りを行い、本人の行動範囲内での買い物となっていました。担当会議にて買い物の流れを見直そうという話になり、各事業所がどのように支援に関われるかという確認を行う事で、自分が着る服などは移動支援を利用してガイドヘルパーと一緒に選んで買う。大きな商品は通販で注文し、自宅に届く対応はホームヘルパー。自分で購入できそうな物は、写真や場所を提示して自分で買いに行くことにも挑戦してもらうなど、事業所間で連携することで状況に応じての対応がスムーズにできるようになり、買い物の幅が広がりました。「買い物」ひとつにしても様々なニーズがあります。今までは本人と事業所だけのつながりで解決できなかった事が、事業所同士がつながり本人の生活を支えていく事、困っていた事が解決できた事で、より積極的に本人から生活面についての困りごとを相談してくれるようになりました。事業所と本人の関係作りを陰で支えつつ、本人の生活がより良くなっているように、困りごとと一緒に解決していく事が、相談員のやりがいだと思ひ、日々の業務に取り組みせてもらっています。

キッズスポットかるがも



はじたん

最近では、みんな大好き「はじたん」を踊って楽しみました。また、「ママたちの防災」というテーマで子育て中のママたちによる体験談、普段からの心構えや防災リュックなどの紹介等をしていただきました。かるがもにはAEDを設置しています。救命救急講習会を開き、消防士の方に蘇生法やAEDの使い方方を教えていただき、防災に関する意識を高めました。地域連携として、登録していただいている先輩ママのボランティアさんに、工作や赤ちゃんの日に「はいはいレース」を担当してもらったり、普段の見守りの中で、身近な先輩ママとして積極的に皆さんの話を聞いてもらっています。また、保健師さんにも定期的に来ていただき、座談会形式でお話しをしていただければと考えています。今後も皆さんに安心して来てもらえる広場になるよう、スタッフ一同頑張っていきたいと思ひます。



今年度総会での提案内容を深め、来年度の方向性を決めるため、つながり後援会・家族会ひだまりの全体集会をもちました。当日の出席者は32名、司会は家族会ひだまり会長の宮浦さんが行い、梶谷後援会会長の挨拶に続き、法人本部より、提案にいたる状況と、提案内容について、くわしく説明がありました。

2019.8.5

つながり後援会

家族会ひだまり全体集会



法人本部よりの提案説明



法人本部事務局長次藤森さんより——サニースポットの状況

事業収入が、2017年度から年々減る傾向にある。その大きな原因のひとつに利用者の状況がある。2017年度生活介護を定員いっぱい【50名】にし、就労継続B型は6名の空がある状態でスタートしたが、それ以降現在にいたるまで、就労継続B型の新規利用者がいない。加えて、2018年度及び2019年度始めには、転居などで生活介護利用者6名が退所。

就労継続B型は、同施設内では生活介護と支援内容の線引きが難しく、また、新規利用者の見込みもないため、見直しを行う→ゆくゆくはサニースポットは生活介護だけの施設にしていきたい。(就労継続B型事業は別の形で継続していきたい。)

今後の計画—生活介護の定員を増やしていく。→**新規利用者の獲得を!**

【課題】新規利用者獲得に向けて、一つの問題になってくるのが家族会の入会金等である。

- ・支援学校の事業所説明会等では、家族会についての質問が多く、入会金や会費についてよく聞かれる。
- ・最近市内にも生活介護の事業所が増え、どの事業所も利用者獲得には苦慮している。
- ・新設された事業所に家族会、入会金の徴収もなく、それを売りにしている事業所も多くある。



家族会の成り立ちや役割等は十分理解し、**家族会自体は必要。**

サニースポットが**選ばれるような施設になる事**が一番の課題。



しかし、年々、報酬単価や支援区分も下げられる傾向がある中、何とか新規利用者を獲得しなければ、今後の法人運営にかかわってくることも事実。



業務執行理事 岡本さんより——**入会金・特別会費**があるわけ

— 2003年4月 サニースポット開設にいたる経過から

サニースポットの土地は高槻市から30年間の無償貸与だが、
 建物建設資金「施設をつくる会」+「支える会」で**1,700**万円準備しなければならなかった。
 「施設をつくる会」利用者家族50人×20万円(1人当たりカンパ目標)=1,000万円を申し合わせ
 *不足分を独立行政法人福祉医療機構(WAM)より**3,000**万円借り入れ(20年返済)
 +開設当初運転資金として個人から無利子1,000万円強借用(返済済み)

**入会金 &
月会費**

2003~2012年度まで/WAM借入金(元金+利子)返済のために
 家族会特別月会費 **6,000**円/月 ×12か月/人 を法人寄付
 *2008年3月 500万円を法人事業拡大に伴い別途法人寄付

2012年~月会費6,000円⇒**3,000**円 に減額 (保護者の高齢化・家族環境の変化)

法人寄付はWAM返済から新規事業開設時に行うことに変更

→2016年 新規グループホーム建設にあたり法人寄付(800万円)

*2003年~2014年(11年間)法人寄付—累計WAM返済額2,020万9千円



法人本部よりの事業提案



施設新規利用にあたっての

家族会 入会金 をなくす



理由 — 検討すべき点

① 施設建設時の借入金返済という当初目的はほぼ達成できている—減価償却も考慮

WAM借入返済状況 —2022年度で返済完了(今年度末残金600万円)—

②利用者家族の状況変化—経済的困難家庭の増加

③障がい者福祉サービスを巡る状況の変化—施設を自分たちでつくる時代から選べる時代

利用者意識の多様化(負担のあるなし・家族会の有無で施設利用を選択)

④入会金は強制力がなく行政的にはあくまで「任意の自発的寄付」の位置づけ

他法人施設と比較して月会費は相応だが、入会金を明記しているところがない中で利用者保護者にとっては入会金への抵抗感が強い。*別の形で寄付はある

⑤サービス利用収入が入らないことで結果的に法人財政も圧迫

⑥多額の繰越金の管理、毎月徴収事務負担への対応



後援会・家族会よりの

質問 & 意見

これから利用者を確保していくのに、入会金がハードルになるんだったら、なしもやむをえないので、提案に賛成です。

障がい児が生まれて仕事をやめざるをえなかった。

仕事を続けていけた人もいるし、年金を受け取っているといっても、他にもそれぞれ事情もちがいで、経済的な状況は、ひとりひとりがうと思えます。

その中で、家族会へ顔を出せば、助け合っているところ、ここ以外には中々ないと思います。しっかりと手を結んでいこう！と思います。

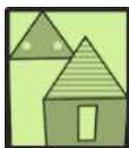
入会金をなくし、任意での寄付ということになれば、「しなくてもいい」と受け取られないか心配している。

サニースポットが出来る前、他の親御さんから声かけしてもらい、一緒にやってきました。がんばってきたと思うが、自分が楽しくて、家族も兄弟も巻きこんでやってきました。ひとりでも多く、入ってもらいたいと思います。

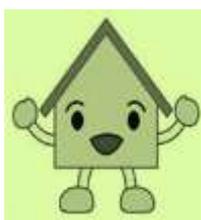
建設する時—特色ある施設づくり

「支える会」に参加し、「つくる会」の保護者がカンパを集めるのに協力し、同僚などに声かけして、たくさんの方よりカンパをしてもらった。これからも「特色のある施設」として運営していくつもり。

入会金変更については「家族ひだまり会則」の改正が必要
(全体集会の決議を経て、次年度5月総会で正式に改正)



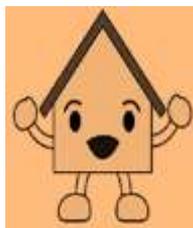
採決 → 決議事項



施設新規利用にあたっての家族会入会金をなくし、法人への任意の寄付

(1口1万円～) に変更する

- *入会金に代わるものとしてサニスポ施設整備減価償却分の協力を入会説明会時に法人より協力要請
- *減価償却の観点に基づく2020年度3万円、21年度2万円、22年度1万円となる(任意寄付額の目安)



月会費3,000円は従来通り

- *事務負担軽減のため年or半年単位徴収に変更
(減免規定の適用と合わせ、家庭状況により毎月徴収も認める)

つながり後援会・家族会ひだまり全体会

2019.12.13

報告：家族会ひだまり特別会計&

通信担当 岡本悦子

記録

グループホーム見学会の報告とこれからのを考える



サニースポット食堂にて

十二月十三日(金)午後一時半から、今秋ふたつのグループホームを見学した報告会が、家族会役員の清水さんの司会により行われました。梶谷後援会会長のあいさつに続き、パワーポイントの映像を見ながら、家族会会長の宮浦さんがそれぞれの施設の特徴を報告し、その後、今後のグループホームについて、参加保護者二十八名全員が発言できるよう、ひとり三分以内で、日ごろ考えていることや不安などを率直に出し合いました。

紙面構成上、詳しい報告は省き、参加された保護者の感想☆を抜粋し、報告いたします。

10月8日(火)



地主さんが積水ハウスに依頼し建設、二〇一七年八月に開設した民家風の平屋建ての建物。

☆「新築となると資金面が大変だが、積水ハウスのオーナー制で土地の用意や建物を借りる事が出来るとの事を伺い、目からウロコ。」



男女共用スペースのリビングで諸富理事さんよりお話を伺いました。台所、リビング、お風呂、トイレが勝手良く配置され、ハロウインの飾り付けなど、季節ごとにリクレーション、外食・旅行などの楽しい行事も計画されていた。平均年齢二十六〜四十六歳、区分平均五〜六の男女五名ずつ十名が暮らし、夜十時以降はろうかがドアで閉めきられるようになっていました。

☆「確固たる信念を持って経営され、大勢の職員さんも生き生きと働かれています。雰囲気、看護師が常駐する点や病院との連携なども必要だなと感じました。」

電車に参加した保護者からは、「駅からかなり遠い所にあつたので少し不便かな」という声もきかれました。

10月8日(火)



法人が土地を購入し、二〇一八年九月に開所。積水ハウス建設の二階建てで、入居者は区分五〜六、身体含む重度の方もおられます。一階に七名、二階に三名。二階には五名の短期入所受け入れの居室もあり、相談事業所、地域交流スペースが併設されていました。☆「周りの環境が自然豊かで広々しており、部屋も廊下もゆつたりしていて、利用者さんの使い勝手よく作られていましたが、サニースポットは、できれば近いところにてきたら良いと思いました。」



☆「見学したグループホームの中で一番広く、今後入居者が高齢になった時のこともイメージし、利用者さんの身体に合わせたお風呂等、重度の身体障がいや重度の子ども達を預けて安心して暮らせる手厚い介護の配慮のあるホームでした。」

☆「保護者の方々の強い気持ちと行動力、協力と職員の方々の熱意があつてこそできたと思います。」

☆「バザーをしたり、コンサートをしたりと努力され、頑張りやに頭が下がりました。『子ども達の障害年金は使ったらだめ、すべて貯金してください。』という言葉が頭から離れません。」



1階

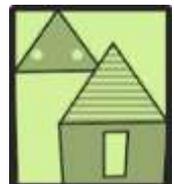
施設パンフレットより

見学を終えて「今後どのようにしていきたいか」

- 地域に根ざした、より開かれたグループホームが身近にあればと思う。
- 断固拒否する娘の状態からグループホームは無理かな？しかし、悠長なことも言ってもらえない。
- 親の年齢を考えると不安を感じる事もあり、親の私たちが元気な間に、早くグループホームの建設を考えるべきだと感じました。
- サニースポットでたくさんの仲間が楽しく通っており、そんな仲間と一緒にグループホームで生活出来たらと思う。
- 賃貸とそうでない所とを見学し、いろいろな方法があるということを知りました。
- どちらが良いのか、それぞれの長所・短所を見極め、皆で話し合っていかなければならないと思います。
- 土地を買うのか借りなのか、お金の余裕次第だと思いますが、サニースポットのように借地の上に建てるというのでは、いずれ土地を手放すか、土地を買わなければならぬと思います。
- 土地取得を含めると「アンタレス」規模のグループホームでも相当費用がかかり、後援会としても積み立てをしていく覚悟があるものだと考えさせられた。
- 大家さんが建て賃貸形式という形がとても参考になった。サニースポット周辺でそんな形が出来ればよいと思うが、中々、そういう相手方を見つけるのが難しい。
- 息子はすでにグループホームに入りましたが、これからの希望者はもつともっと、話し合いを高め合って一人一人が先頭に立つ勢いでがんばってほしい。応援も助言も惜しみません。

法人施設職員からの意見

- 希望者は重度さんだけでなく、新築でなくてはならないという事はありません。将来、一人暮らしをめざす方や集団生活のルールを身につけたい方、少しでも生活力、自立度を上げたい方など様々です。夜勤者がなくても生活できる方、夜勤者がいないと生活が難しい方を含め、幅広い検討をする必要があると思います。
- 一か所とも特徴がありますが、利用者さんの将来に対して職員意識が高いなあと感じました。
- つながりも様々な職種のスタッフがいいますが、いろんな視点から将来について考えていけたらと思います。
- 誰でも住みやすいグループホームを考えて、実際にスタッフが介助しやすく利用者さんも住みやすい部屋づくり等を工夫して、次のホームを作る際に提案していけたらと思います。



障がいのある子どもたちの進路を切り拓いて… VOL.3

社会福祉法人つながり理事&家族会ひだまり会員

佐竹美和子

さん インタビュー



保育士と障がい児の親

一足のわらじをはいて

五十年前に、縁あって富田に嫁いできましたが、それ以前は他市の保育所に勤め、組合運動もしていました。

実家の父は、早くから大阪の部落解放運動に携わっていましたので、

「困った人がいたら助けなアカン、お前が食べていけて、隣が食べていけへんかったらどないするねん！」

という考えで、子どものころから父の背中をみて育ちました。隣の人にたのまれ、しょっちゅう隣の子をおんぶひもで背負って子守りをしていました。子どもがごはんにしょうゆをかけて食べるのを見て、家の畑のネギをとって、かつおぶしを持っていったこともありました。

部落解放同盟高槻富田支部が一九六一(昭和三十六)年に結成される少し前のことです。

実家の父が連日富田にオルグに行っていた関係で、当時富田小学校の教師で支部結成の運動をしていた義父との話の成り行きで、長男と結婚することになり、富田に came ました。

嫁いでからは本当に苦勞の連続でしたが、

「長男の嫁はしっかりしなくては」

と、がんばってきました。新婚旅行から帰ってすぐに義母が倒れて亡くなり、義弟や義妹もいる所帯の家事に加え、まもなく義父も寝たきりになりました。世間の人から「昔は立派な人やったのに…」と後ろ指をさされないよう、「きれいな老人でいてほしい」と、下の世話から週五日はお風呂に入れるなど、完璧な介護をしたつもりです。

恭一は保育所に通っていました。三歳年上の兄は、生まれた当初、赤ちゃんホーム―無認可の共同保育所にしか入れなかったため、保育所を建てようとして明倫館(*次頁に説明)で話し合いを重ね、やっと地域に公立の保育所ができました。

恭一が一歳半になった時、みんなより遅れていました。しかし、兄がとてもしっかりしていましたのでこの子ども大器晩成型だろうなと思っていました。けれども、やっぱり遅いので、問診を受けることにしました。

本通信では、二年あまりグループホーム「コラム」建設に伴う報告が続き、実に三年ぶりとなるインタビュです。今回は、息子の恭一さんがコラムに入居されている佐竹美和子さんに、お盆休みにご自宅にてお話を伺いました。

初回は、地域に重度重複の障がいをもつ子どもたちの行き場がない時代から、苦難の道を切りひらいてこられた山口富美恵さんに。

前回は中園功子さんに、息子さんの内に秘められた絵画の可能性を信じ、引き出していかれた歩みを。

そして今回は、サニースポット建設の折、「施設をつくる会」の代表として先頭をきって資金集めに奔走し、引き続き法人の理事として、後に続く家族会の方達に、時には辛口の意見を投げかけてこられた佐竹さんに、うちに秘めてこられた思いを伺うことができました。



8歳 / 信州にて

インタビュー：つながり後援会 中村
文責・紙面構成：家族会ひだまり 朝日



***明倫館** 富田町が高槻市と合併する前の一九五四(昭和二九)年、学習会や集会の中心となつた建物。佐竹敬太郎氏が自宅で勉強を教えていた明倫塾の明倫道として明倫館とした。現在は、道路の拡張にともない、富寿栄公園内に移転。

結果を聞く段になって、シヨックを受けさせないために、私は室外に出され、夫の方に、医者が話をしました。

「自閉的傾向を伴う精神発達遅滞児です。落ち込まれるから支えてあげて下さい」

夫から話を聞いた時は、奈落の底へ落とされたような気持ちになりました。

その一方で、仕事柄保育士として晩稲おくての子どもにも関わっているのだから、落ち込んでばかりいてはアカンと思いましたが。

自閉症児親の会へ入って 公立高校へ障がい児を

保育所をやめさせられては大変だと気がつき、保育所長に談判に行きました。(当時は公立保育所に障がい児の受け入れがなかった)

「恭一に障がい児というレッテルが付きました。退所せなあかんですか!」

「部長に交渉してくれ」

と言われ、部長に会いにいきました。やり取りの中で最終的に、

「部長の人間性がものをいいます」

と訴え、引き続き、通所できることになりました。結果として、恭一が、公立保育所で障がいをもつ子の保育をする一先駆者になりました。

しかしその一方で、しんどかったのは我が子の症状でした。



夜中の四時まで寝てくれず、少しでも目を離すと行方不明になるので、親は徹夜することになります。それでも仕事に行き、先頭きって働かなくてはなりません。お迎えは自転車で、おんぶひもでおんぶすると、髪をつかみくるくるときつくひっぱるなど、毎日振り回されました。睡眠障害にしんどくて極限まで追いつめられていきました。

その時、夫に「おまえの子は、わしの子でもあるんや」と言われ、はつとしました。

「この子も、人格をもったひとりの人間、地域の人間として、見守ってもらわなアカン」

ということに気づき、「高槻自閉症児親の会」へ入りました。

若い頃の労働組合の経験もあり、だれかが役割を引き受けなかつたら運動は前へ進まへんと思っていましたので、府の教育委員会の交渉へ白羽の矢がたちました。強い口調でつめよったりしていましたので、ずいぶん強い親やと思われていたと思います。



小学校入学前のことでした。

校区の就学指導委員会では、一年生の担任に立候補してくれる教師もあり、さすが地元は人権教

育の小学校といわれるだけあって、受け入れ準備も始まっていました。ところが、

「養護学校が望ましい」

という就学通知がきました。

教育委員会の中に、養護学校義務化を進めなアカンという考えの教師がいたからでした。我が子だけでなく、あとに続く子どもたちのためにも思い、すぐさま、夫が教育委員会に抗議しに行き、撤回されました。



2005年8月、自宅庭にて

「義務教育が終わった後は、地元の阿武野高校への入学を希望していました。しかし、当時は地元集中運動がありました。知的障がいをもつ子どもの受け入れはありませんでした。」

注：地元集中運動 地域の子どもを地域で育て、高校間の学力格差を解消し、全員が高校入学できるようにという取り組み

「いいこの家」へ通いながら、三年間、阿武野高校の校門前登校をしました。

「ほくらが責任もって見るから、遠足に連れて行きたい」

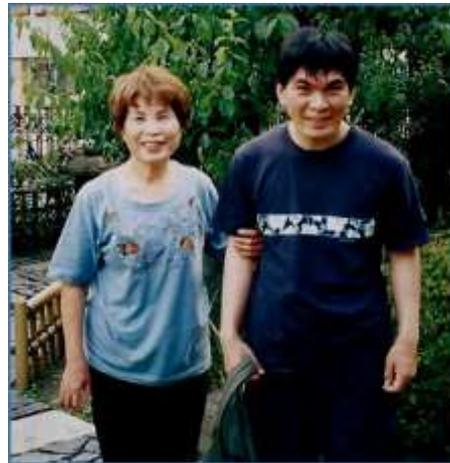
と、言ってくれる同級生もいましたが、実現しませんでした。

その後の下の学年では「交流生」になった後輩もあり、後に続く障がい児のためにも道が拓けたんではないかと思えます。



注：府立阿武野高校は、府内では柴島高校等と並んで二〇〇一(平成一三)年度から「知的障がいのある生徒の受け入れ」を調査研究校として試行。二〇〇六(平成一八)年度から、全国で初めて制度化された知的障がいのある生徒の「自立支援コース」(愛称ぴあ)を設置

コラム 富田 に入居して



二〇〇五年八月 自宅の庭にて

あの苦労は、どこに行ったのと思う位、今、最高に落ち着いています。(恭一さんは、九月で四八歳になられました。)

私が死んだ後を考えると、これまでコツコツと貯金してきたのを、確実にサニースポット・コラムに使うてほしいと思います。とか、かく言う声も聞こえてきますが、思い切って多額の寄付をしました。

「コラムの職員さんには、土日交代で休みなしで勤務してくださっているの、本当に感謝しています。」

あとに続く家族会の人には、もつとがんばってほしいと思います。

「サニースポットに入ったらラクやでー」などという声が、よその施設を利用している人からも聞こえてきます。みんな苦労して建てた施設だけに、このままではアカンという気持ちになります。

私自身はこれまでも必死でしたので、遺言のようになつても、耳に痛いことも言うてきました。それというのも、今の家を建て直した時も、「路地を入った暗い家」と言われていたので、反対に「表通りに建てよう」とやりくりして実際に建てました。負けん気の性格で万事やってこれたように思います。



絵心のあるガイドヘルパーさんが描いた肖像画

つながりが存続していくためには、たとえ心ないことを言われようとも、できることはしたいと思っております。

お金があるから寄付をするのではないのです。父親ゆずりの人のためになるような生き方をと思っております。

二〇一九.八.一六インタビュー





つながり後援会会員にご入会&ご寄附ありがとうございました。 心より感謝申し上げます。



青地かじ子 井上任典 今井温子 植前秋恵 海老ヶ瀬正三 大山美智子 太田笑子 小倉真佐子
 小田嶋純子 勝部忠雄 川中辰介 神田愛子 久保有 小坂茂 佐竹真一 佐竹由紀子 白岩登志男
 鈴木とき子 杉木武夫 高松寿美 土居健造 永江結子 中村薫 藤波和子 増井寿美 宮下小夜子
 三好輝幸 村上富貴子 村上民雄 森内桂子 森岡榮子 矢野和美 山口好子 吉田仁志 吉田正彦
 匿名希望2名 以上37名 (2019年7月~2019年11月現在 敬称略:順不同)

サニースポット夏まつり・フェスタヒューマンライツ家族会ひだまり売り上げ

担当 後援会・家族会会計 中川春枝

7月20日(土)第18回さすば夏まつり、12月1日フェスタヒューマンライツも、みなさまのご尽力によりまして、無事終えることができました。ひだまりの収益を下記の通り、報告いたします。なお、収益はサニースポットに寄付いたしました。毎年、準備から当日のお店番とみなさまお疲れ様でした。ご協力感謝申し上げます。
 注:夏祭り+フェスタ=合計して報告

	材料費	売上	純利益
1班 バザー	0+4,542=4,542円	19,080+24,580=43,660円	19,080+20,038=39,118円
2班 ゲーム	6,700+4,768=11,468円	21,000+27,500=48,500円	14,300+22,732=37,032円
合計	33,380【夏祭り】+42,770【フェスタ】=76,150円		

～編集後記～

今号でこの“つながり通信”が50号を迎えることになりました。記事依頼から編集、印刷など業務の傍らで行うには負担が大きいのですが、編集を行う度に当法人の活動を振り返り、支えて下さっている方たちの思いを知り、次への活力につながっています。今号より、縦書き・右開きに変更しました。私たちの思いがこの通信で伝わるよう工夫して参りますので、楽しみにして下さい。

つながり通信編集担当: 妹尾

法人事業所一覧

サニースポット (生活介護、就労継続支援B型)
 〒569-0814 高槻市富田町4-7-16
 (TEL)072-697-7080 (FAX)072-697-7086

しゃあぶ (日中一次支援)
 〒569-0814 高槻市富田町4-7-16(サニースポット内)
 (TEL)072-697-7105 (FAX)072-697-7108

ワークスポット
 (就労移行支援、自立訓練【生活】、就労定着支援)
 〒569-0814 高槻市富田町2-1-24
 ハイツエレガンス1F
 (TEL・FAX)072-696-4484

ふらっと (障がい児放課後等デイサービス事業)
 〒569-1144 高槻市大畑町25-6 小川ビル1F
 (TEL)072-668-2781 (FAX)072-668-2785

コラム (共同生活援助)
 (TEL)072-694-1775 (FAX)072-694-1776

地域生活相談所ライラック
 (障がい児・者ホームヘルプ・ガイドヘルプ・
 障がい児・者 相談支援/高齢者ホームヘルプ)
 〒569-0822 高槻市津之江町2丁目24-12今井ビル2F
 (TEL)072-676-5513 (FAX)072-676-5531

キッズスポットかるがも 子育て支援 つどいの広場
 〒569-0822 高槻市津之江町2丁目24-12今井ビル1F
 (TEL・FAX)072-661-2326

★ 法人ホームページ ★

★ <http://tsunagari.info/>

★ Facebook もチェック!

